

虹の架橋

今月の題字
阿久津直司さん

(大間々町小平)

5年前から隔月で「嵯峨宮頼り」を発行している嵯峨宮世話人の阿久津さん。700年の歴史を誇る由緒ある嵯峨宮では今年も12月17日(日)に武者行列と埋蔵祈願式が挙

大間々町発祥由来の地で初イベント

『イトロイロマーケット』
今から約四百年前に大間々を開いたのは「大間々六人衆」と呼ばれた人たちでした。桐生から大間々へ入る孫兵衛辻子(まへえし)と呼ばれた通りの突き当りには今も高草木家の古い屋敷や嘉永三年につくられた土蔵があり、周囲には長澤家や大塚家の土蔵(みどり市古文書収蔵庫)もあります。近藤酒造や岡商店などの老舗も町の長い歴史を感じさせてくれます。



イトロイロマーケット
【Haji-Maru】孫兵衛辻子
2023.12.10 (Sunday) 10:00 - 16:00
《キッチンカー》
《Food》
《Workshop》
主催(株)いるといる 後援【群馬県】【みどり市】



小耳にはさんだ

いい話
(文責・靖)
《340》

掃除を通して世の中の荒みもなくそうという地道な活動を続けている『日本を美しくする会』が設立三十周年の節目を迎え、会の歴史と精神を次の世代に正しく伝えるために『掃除道』というタイトルの記念誌が発刊されました。掃除道の提唱者であり、イエローハットの創業者でもある鍵山秀三郎さんとの出会いを通して正しい生き方を学んだ288名の投稿が掲載されていて、一人一人の体験談や熱い思いに共感しました。

後ろ姿に人格が現れる

十二月十日(日)午前十時から午後四時まで、孫兵衛辻子エリアの空き店舗と駐車場などを活用して「イトロイロマーケット」というイベントが初めて開催されます。主催は、この地域の活用と活性化を目的に設立された(株)いるといる。後援は群馬県とみどり市。当日は、七台のキッチンカーや「ままよし」の子供縁日も出店。楽しいワークショップや物販のお店も出店する予定です。駐車場は足利屋の隣裏のいきいきセンターか大間々庁舎の駐車場をご利用ください。(株)いるといるでは、空き店舗のテナントも募集中。この地域が再び活性化されることを期待されています。

総理大臣経験者の野田佳彦さんの「後ろ姿」という文章から鍵山さんのお人柄が伝わってきます。雪の降るとても寒い日、船橋で開催された『掃除に学ぶ会』、鍵山秀三郎相談役の実践指導もあるというところで、多くの人が参加した熱気溢れる会でした。マイカーで帰路につこうという時です。雪に気をつけながら慎重に校門の間際まで進んだ時、前方の車が突然止まりました。後部ドアが開き、初老の男性が数メートル走り、雪景色の中からひとつの空き缶を拾うと、直ちに車に戻りました。車に乗り込む一瞬、男性の顔を確認しました。鍵山相談役でした。停

車から発車までわずか数秒、私は鳥肌の立つような感動を覚えました。『ひとつ拾えば一つだけきれいになる』は単なるスローガンではありませんでした。「掃除の会」を終え、会場から出ていくときも、ゴミを見つけたら拾って去っていく。その自然体の実践現場を幸運にも目撃することができました。このエピソードはまさに、「後ろ姿に人格が現れる」という教訓でした。鍵山さんは大間々駅やみどり市内の学校のトイ

掃除指導に十二回も無償で来て下さいました。その時、「仕事」には「私の仕事」と「あなたの仕事」のほかに「誰の仕事でもない仕事」というのがあります。その「誰の仕事でもない仕事は私の仕事である」という考えを持つことが大事です。よと教えて下さいました。十一月二十五日に日本を美しくする会三十周年大会が開かれ、全国から四百三十人の掃除仲間が集りました。誰の仕事でもない仕事を私の仕事と考える人ばかりでした。

掃除道
レ掃除指導に十二回も無償で来て下さいました。その時、「仕事」には「私の仕事」と「あなたの仕事」のほかに「誰の仕事でもない仕事」というのがあります。その「誰の仕事でもない仕事は私の仕事である」という考えを持つことが大事です。よと教えて下さいました。十一月二十五日に日本を美しくする会三十周年大会が開かれ、全国から四百三十人の掃除仲間が集りました。誰の仕事でもない仕事を私の仕事と考える人ばかりでした。

世界一小さな 定利屋 トイレ美術館
今月の絵《340》
筑井孝子さん『桐生天満宮』
毎年好評の『筑井孝子カレンダー』を今年もご希望の方に足利屋、アスクで無料で差上げておられます。2024年カレンダーは「ふるさと群馬の風物詩」をテーマに四季折々、県内各地の名所の風景が描かれています。カレンダーの表紙の絵は、2023年6月に国の重要文化財に指定された桐生天満宮。黒保根村で生まれ、花輪で修業した関口文次郎は「上州の甚五郎」と言われ、文次郎が彫刻棟梁として手掛けた天満宮の華麗な彫刻は彼の代表作の一つです。筑井孝子さんのカレンダーは先着200名の方に差上げます。お早めにご来店下さい。



靖ちゃん日記

令和五年十一月十二日(日)
なごめ余興場で開催中の「菊草寄席」。菊を見る為の入園料四百円を払えば寄席がタダで観られるので毎週足を運んでくれるお客さんもいて落語談義に話が弾んだ。今日の出演者の中の春風亭一花さんは昨日行われた「NHK新人落語大賞」の決勝に残った五人のうち唯一の女性噺家。余興場の入口で入場を待つ人達に昨日の大会の動画をスマホで見せていた時に一花さんが来た。一花さんに動画を見せながら「昨日の演目の「四段目」をやった」と頼むと嬉しそうに「はい」と答えてくれた。一花さんにウインクをしたか気がかすに行ってしまった。四段目は歌舞伎の忠臣蔵の四段目が大好きな下雉が仕事をサボって芝居見物。店に帰ると全てお見通しの主人にあれこれ言いつくるところが、仕事をサボって愛妻にお水これ言いつくるところ自分と似ていた。ウインクして「お水顔で無視される。」



虹の架橋を検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

第三百四十一号は令和六年一月一日(月)発行予定です。